

## 米国 ドル高、原油価格下落等により停滞継続(15年12月鉱工業生産)

2016年1月18日(月)

～製造業の拡大モメンタムの鈍化が止まらず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
15/04	▲0.2	(+2.1)	+0.4	▲1.3	▲2.6	+0.1	+0.4	+1.7	+78.0	+76.8	+0.1
15/05	▲0.4	(+1.4)	▲0.0	▲2.3	▲0.5	▲0.1	+0.0	+2.4	+77.6	+76.7	+0.1
15/06	▲0.0	(+0.9)	▲0.1	▲0.1	+0.9	+0.2	▲0.1	▲4.4	+77.5	+76.5	+0.1
15/07	+0.8	(+1.3)	+1.0	+1.2	▲1.4	▲0.1	+1.1	+10.6	+78.0	+77.1	+0.1
15/08	+0.1	(+1.4)	▲0.1	+0.2	+1.5	▲0.2	▲0.1	▲5.1	+78.0	+77.0	+0.1
15/09	▲0.0	(+0.8)	▲0.1	▲0.9	+1.7	+0.6	▲0.3	+0.5	+77.9	+76.8	+0.1
15/10	▲0.2	(+0.5)	+0.4	▲2.0	▲1.8	+1.4	+0.3	+1.1	+77.7	+77.0	+0.1
15/11	▲0.9	(▲1.3)	▲0.1	▲2.1	▲5.0	▲0.5	▲0.1	▲1.5	+76.9	+76.8	+0.1
15/12	▲0.4	(▲1.8)	▲0.1	▲0.8	▲2.0	+1.4	▲0.1	▲1.7	+76.5	+76.6	+0.1

### 12月の鉱工業生産は前月比▲0.4%と4ヶ月連続の減少

15年12月の鉱工業生産は、前月比▲0.4%と4ヶ月連続で減少したうえ、減少幅は市場予想の同▲0.2%を上回った。製造業生産は、ハイテクに回復の動きがみられるものの、ハイテク以外はドル高、新興国経済減速、在庫調整の影響を強く受け、全体で前月比▲0.1%と2ヶ月連続の減少となった。また、公益が例年よりも温暖な天候を受け前月比▲2.0%と3ヶ月連続で減少したほか、鉱業が原油価格下落による石油掘削などの落ち込みを背景に前月比▲0.8%と4ヶ月連続のマイナスとなった。米国の生産活動は、ドル高、原油価格下落、世界経済減速、設備投資の伸び悩みなどや、在庫の積み上がりを背景に、調整色を強めている。

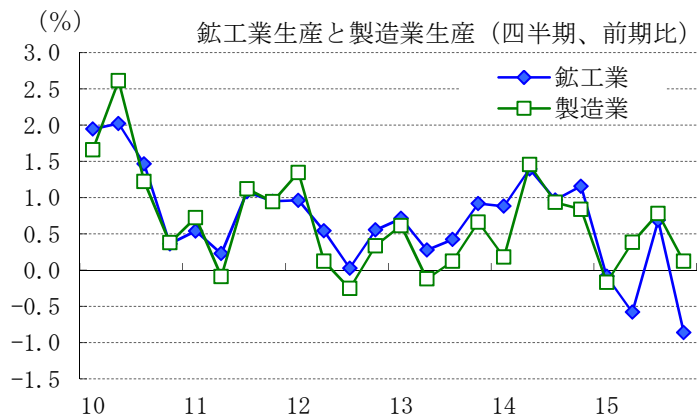
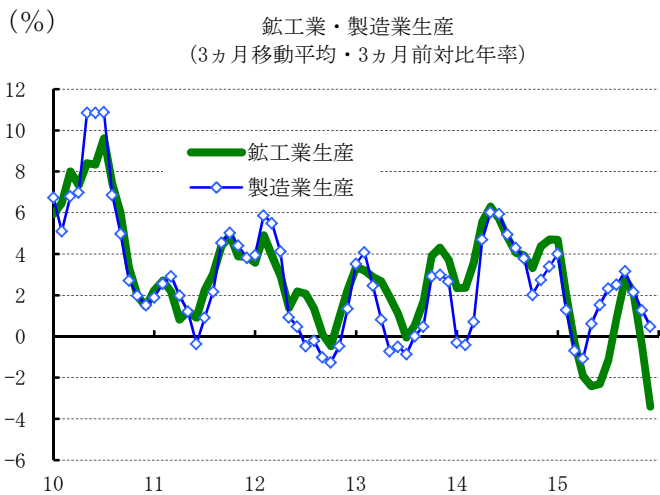
業種別では、加工金属、電気設備・部品、航空機・その他輸送設備、繊維が増加に転じたうえ、木材、コンピューター・電子機器、プラスチック・ゴム製品は加速した。インフラ関係やハイテク部門は、回復感を強めている。一方で、一般機械は設備投資の抑制を映じて4ヶ月連続の減少。非鉄、その他製造業、食品・飲料・タバコは鈍化した。また、家具・関連製品、アパレル、印刷・同サポート、化学が減少に転じたほか、一次金属、自動車・同部品、紙、石油・石炭が減少幅を拡大した。稼働率では、鉱工業全体が76.5%と低下し市場予想の76.8%を下回った。また、製造業は76.6%に低下しており、設備投資を抑制する要因となっている。

### 年前半の生産活動は停滞感の強い状況が続く見込み

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が12月にエネルギー関連の落ち込みを背景に▲3.4%（前月▲0.5%）とマイナス幅を拡大した。一方、製造業生産は自動車生産が勢いを弱めたことなどにより+0.5%（前月+1.3%）と鈍化し、拡大モメンタムが弱まっている。

四半期では、10-12月期の鉱工業生産は鉱業の落ち込みにより前期比年率▲3.4%（7-9月期前期比年率+2.8%）とマイナスに転じた。一方、10-12月期の製造業生産は、同+0.5%と7-9月期に同+3.2%上昇した反動もあり鈍化、小幅の拡大にとどまった。

年前半の鉱工業・製造業生産は、これまでのドル高、原油価格の下落、世界経済の鈍化のほか、在庫調整圧力の残存を背景に、停滞感の強い状況が続くと予想される。



(出所) FRB

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。